



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

126

2024.12

Vol.28 No.3 通巻126号 2024年12月15日発行(年4回発行)



友の会講座の企画募集をしています
ご自分で講座プログラムを立ち上げてみませんか

友の会では、引き続き会員の皆さまより講座の企画募集を行っています。
昆虫や魚類、哺乳類の講座をやってみたい、などなど、会員の皆さまがお考えになっている、
やってみたい企画を募集しています。同封のチラシをご覧ください、ぜひご検討ください。

目次

事務局より	2
情報クリップ	2
活動報告	3
行事案内	8

事務局より

2024年度第4回友の会役員会の開催

2024年9月21日(土)14時より、今年度第4回の友の会役員会を開催しました。

現在の会員数及び収支についての報告がありました。昨年度と比較すると多少少ない人数ではありますが、コロナ禍前の2019年度(5年前)と比べると約100名近くの減。肝は魅力ある講座の開催との認識は役員間では共有されていますが、では実際にどうするか、との議論については具体的な回答は出ませんでした。10月14日のブログでもご案内しましたが、是非、皆さまからの講座企画のご提案をいただきたく、よろしくお願いします。

企画部からは今年度下半期の講座の確認及び来年度の講座の状況等の報告がありました。また2025年3月開催予定のミューズフェスタ2025について、実施内容の確認等が行われました。

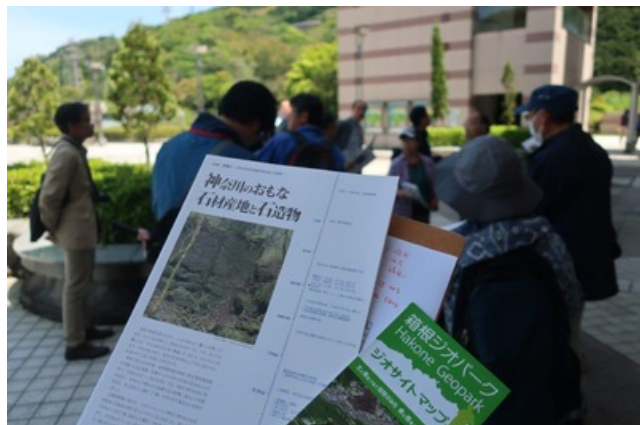
友の会講座企画の事業を募集します！

10月14日のブログにてご依頼したところですが、引き続き友の会講座の企画を募集します。

友の会講座事業でこんなことをやってみたい、たとえば昆虫の講座をやってみたい、魚類の講座をやってみたい、哺乳類の講座をやってみたい、などなど、会員の皆さまのお持ちになっている企画について、ひろく募集いたします。次の1～5の項目をご記入いただき、友の会宛てにご連絡ください。

■ 企画内容

1. 氏名・会員番号
2. 企画の名称
3. 内容(20字程度)
4. 実施の時期
5. 実施場所・方面



情報クリップ

2024年度 友の会会員数:355名(10月31日現在)
正会員:352名/賛助会員:3名

●「2024年度 子ども自然科学作品展」のお知らせ



開催期間:2024年12月21日(土)～
2025年1月13日(月・祝)

夏休みの自由研究や日頃から行っている調査研究の成果など、自然科学に関する小・中学生の研究作品を展示します。毎年、数多くの力作が寄せられ、作品の一つひとつに当館の学芸員のコメントが付けられます。他の児童・生徒の皆さんの研究の参考にもなります。

●博物館からのお知らせ

最新の情報は、博物館ウェブサイトや公式X(旧Twitter)でお知らせしますので、ご来館の際は必ず事前にご確認ください。

問合せ先:神奈川県立 生命の星・地球博物館
企画普及課 TEL:0465-21-1515
FAX:0465-23-8846

- ・ウェブサイト: <https://nh.kanagawa-museum.jp/>
- ・公式X: @seimeinohoshiPR
- ・混雑情報X: @seimeinohoshiCI

活動報告（地学グループ）

◆地話懇話会「岩石に残された変形の履歴」

2024年8月21日（水）／博物館講義室／23名
（スタッフ含む）／講師：夏目樹（いつき）学芸員



地話懇話会デビューの夏目樹学芸員

今年度赴任された夏目学芸員に、ご専門の研究についてのご講演をいただいた。

プレートの衝突帯では、普通、密度の大きい海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む。ところが、時として海洋プレートが大陸プレートの上に乗り上げてしまうこともあるという。

海洋プレートは、玄武岩質の海洋性地殻とその下側の流動性を失ったマントル上部から成る。この海洋プレートの断面と考えられているのが、オフィオライト層序で、上位から、海底に噴出した枕状溶岩、玄武岩、斑レイ岩、地殻とマントルの境界と考えられているモホ面を境に高圧下で安定なダナイトやハルツバーチャイトなどの橄欖岩類で構成されている。日本でも、付加体の衝上断層に沿ってその一部が現われているところもあるが、夏目学芸員が調査したオマーンのオフィオライトは、中生代の頃にローラシア大陸とゴンドワナ大陸の間に広がっていたテーチス海の海洋プレートの一部が大陸のプレ-



熱心にお話を聴く参加者の皆さん

トに衝上したもので、その層序が揃って明瞭に現われている。

現地調査のスライドでは、枕状溶岩やモホ面の斑レイ岩と橄欖岩の境目、橄欖岩を削った切り通しの露頭など、乾燥地帯のこともあり、大変鮮明で分かりやすかった。現地での食事の写真なども交え、調査の様子もうかがえた。



お話後半では、なぜかオマーン料理が連発

岩石に力が加わった場合、浅いところでは破壊や脆性変形が起こるが、地下深部の高圧下では、粒子が引き伸ばされたり細粒化などの塑性変形が起こりマイロナイトになる。薄片による顕微鏡写真では、角閃石が割れ、斜長石が引き伸ばされた様子が鮮明に見られた。これらの変形は、変動を受けたときの温度や圧力の条件を記録していると考えられる。



岩石サンプルの説明を聴く

夏目学芸員らの今後の研究によって、オマーンのオフィオライトが乗り上げた経緯やメカニズムなどが更に解き明かされていくことが期待できる。

海洋プレート深部の岩石の研究だけに、奥は深そうだ。（友の会 谷 圭司）

活動報告（サロン・ド・小田原）

◆第141回サロン・ド・小田原

「生命の星・地球博物館の30年と、その未来像」

2024年9月7日（土）／西側講義室／27名／

佐藤武宏学芸員（当館学芸員）



話題提供者の佐藤武宏学芸部長

今回のサロン・ド・小田原は「生命の星・地球博物館の開館30周年記念特別展 - 120万点から厳選した資料で振り返る」（開催期間2024.7.13~11.4）に関連して、そのチーフ役を務められた佐藤武宏さんにお話をさせていただくことになりました。三部構成で、第一部は講演60分で第二部は特別展会場での解説30分、第三部は第一部の会場に戻ってから「私の意見紹介」20分でした。

第一部でのお話は、博物館の歴史を紐解く内容でした。我が生命の星・地球博物館の前身は1967年（昭和42年）開館の神奈川県立博物館（横浜・馬車道）であり、そこから自然科学系を分離する形で1995年（平成7年）3月20日に入生田の地に開館し、翌21日にオープンの日を迎えました。初代館長には濱田隆士先生が就任されました。佐藤武宏さんは、この開館時からズーッといられたとのことで来年の2025年3月には、めでたく30年永年勤続を迎えることにもなります。

さて、その佐藤さん曰く「30年の歴史で、60分のお話はそれほどネタもなく持たない。」そこで、世界に目を向けて「博物館の3000年」を紐解くことになった。いろいろなお話がありましたが、「博物館」の語源は「^{ひろ}博く物を扱う館」辺りから始まり、Museumはギリシアの女神を祭る神殿・

Mouseion から来ていて、そのため博物館の地図記号は、ギリシア神殿のようなデザインになっているとか。私は、この地図記号について知らなかったためか、このお話が一番印象に残りました。



第二部の特別展会場での解説はポータブル拡声器を使って聴き取りやすい説明が余裕をもって行なわれました。一般の親子連れの人たちも佐藤さんのお話に耳を傾けている微笑ましい風景もありました。



特別展会場にて佐藤さんの解説を聴く

いろいろな分野の思いが籠もった展示物が数の限りのある中で展示されていましたが、私の心に残ったのは壁に貼られたこれまでの開催事業のポスターでした。



第三部では、「ご自分が考える生命の星・地球博物館の未来像」について意見を交わしていただきました。活発な意見交換がされ、アンケート用紙にも11件のご意見を頂きました。（友の会 飯島俊幸）



会場風景

活動報告（よろずスタジオ）

◆「巻貝の中を見てみよう」

2024年9月15日（日）／博物館講義室／68名
（大人36名、子ども32名）／講師：佐藤学芸員
／スタッフ：3名

いろいろな巻貝を見て触って貝の中はどうなっているのか考えていきます。上から下の方までぐると線がまわっている巻貝や途中で線が分からなくなってしまう巻貝もある。では巻貝の中はどうなっているのか？そこで佐藤先生が横に切った巻貝や縦に切った巻貝を見せてくれる。トゲのようなものが何本も出ている大きなスナジガイも巻貝に見えないタカラガイの中はくるくる巻いているのが分かる。

断面を指でなでたり、ぐるぐる巻きをたどったり、手に持って横にしたり縦にしたりと、外からでは見えない貝の中の様子を子供だけでなく大人の方も興味深く観察していました。最後に縦にスライスされたいろいろな巻貝を使ってこすりだしを楽しみました。

（友の会 佐々木あや子）

【参加者からの感想】

よろずスタジオ「巻貝の中を見てみよう」に5歳の息子と参加しました。普段見たこともない、いろいろな巻貝を触って「くるくる巻いている！」と大喜び。巻貝の中がどうなっているかは想像もつかなかったようで、切断した断面を見てびっくりしていました。切断面の模様を太いクレヨンでこすり出すのがとても楽しかったようで、全ての種類をこすり出し、貝の名前も一緒に紙に書いて持ち帰りました。いろいろな貝を子供が実際に触る機会はなかなかないですし、未就学児でも短時間で楽しめる、博物館らしい体験ができてとても良かったです。（保護者Ⅰ）



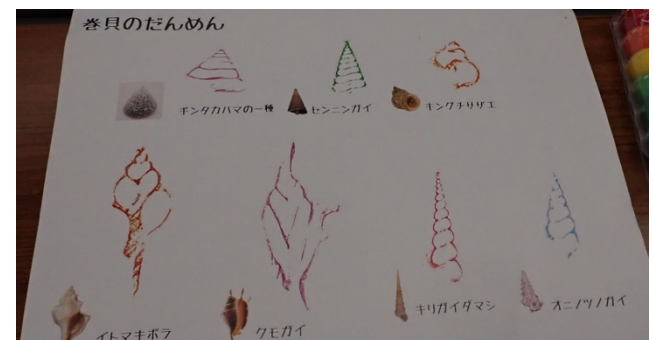
しっかり押さえて、うまく出来るかな



大きな貝、スナジガイも横に切ると中が見える



タカラガイの中もやっぱりぐるぐるになっている



巻貝の断面



こんなのできたよ

活動報告（植物グループ）

◆植物観察会「身近な植物観察入門」

2024年9月28日（土）／博物館から山神社
社・宮沢川沿い／参加者：11名（スタッフ
含む）／担当：植物グループ

まず始めに、昨年の観察会でのナンバンギセルの
情報があり博物館河原へ。ススキに寄生していたナ
ンバンギセルを探し出し「初めて！」の声も。道ば
たでは、オオニシキソウ、アレチヌスビトハギ、ア
レチハナガサなどをゆっくり観察。前庭のソテツの
周りでシジミチョウの仲間が乱舞、蝶に詳しい方か
らクロマダラソテツシジミという南方系の蝶で温暖
化によりこの辺りでも見られるようになったとのお
話。その後コースを山神社に向ける。道端のよく
似ているエノキグサ（トウダイグサ科）とクワクサ
（クワ科）の違いを確認。ミツデウラボシ、コミカ
ンソウ、ザクロソウ、ウリクサ、イヌクグなどを見
ながら紹太寺参道へ。その先にカラスノゴマがちょ
うど見頃の花をつけていた。宮川沿いで時間とな
り、入生田駅に戻り解散した。「ループで花の様子
をゆっくり見たり、オニドコロの果実から6個の種
子が出てきたりと、とても面白かった。」「毎回同
じようなコースでも新しい発見があり楽しい。」と
参加者の声でした。（植物グループ 石橋美春）



観察会風景



クロマダラソテツシジミ

◆植物観察会「身近な植物観察入門」

2024年10月26日（土）／博物館から山神社
／参加者：13名（スタッフ含む）／担当：
植物グループ

コースは3つくらい候補にあげていたが、今回は
山神社の樹木をメインに植物観察を実施。多分、
意図的に植えられたのであろうサカキ、ヒサカキ、
タラヨウ、カゴノキ、ナンテン等、勝手に生えてき
たのであろうアカメガシワ、ヤマグワなどを観察、
地面に落ちているカヤの実を拾ったりしていたらそ
れほど広くない神社境内で観察会の終了時間が迫る

神社到着前にクリハランがあったので、小さな祠
の傍に生えているミツデウラボシのソーラスのつき
方の違いを見てもらったりとシダの観察も少々。

シダの小さい葉っぱ（小羽片）の真ん中に走る筋
をなんと言うんでしょう？と参加者にお尋ねしたと
ころ、参加者9名中、お二方が“中肋”（ちゅうろ
く）ときちんと答えてびっくり。うーむ、ほんとに
“身近な植物観察入門”という観察会名で良いものな
のだろうか、と少し複雑な気分になりました。

（植物グループ 石井俊哉）



観察会風景（皆さん、細部にこだわります）



タイワンホトトギス（細部にこだわらない私の家族はホ
トトギス呼んでいます）

◆植物観察会「森戸川にタニジャコウソウを見に行こう」

2024年10月11日(金)/三浦郡葉山町森戸川/14名(スタッフ含む)/講師:田中徳久当館館長/担当:植物グループ

今日は9人の参加者に、田中館長と4人の植物グループメンバー、総勢14名での観察会である。JR逗子駅に集合し、10時発のバスに乗車10分ほどの川久保バス停で下車、森戸川林道へ向かう。歩き始めると、早速黄色い花と若い豆果のついた海岸に近い所に生えるタンキリマメや、蕾のついたミツバベンケイソウ等を見つける。ケンポナシには、果序軸が肥厚した果実がついていた。やっと林道入口に到着、11時を過ぎていた。

担当が観察会開始の挨拶をし、田中先生に早速森戸川の地層と植生についてのお話しをしていただく。森戸川流域は約500万年位前の古い地層(三浦層群)である、林床にはネコノメソウなどの湿生の植物が多いと伺う。林道に入ると、道の両側にはシダが多く、キチジョウソウ、イラクサ、ネコノメソウ類などが目につく。カリガネソウがちょうど花をつけていた。ムカゴイラクサや崖のハコネシダなどを見ながら進むと、ヒメウツギが若い果実をつけていた。

少し広い所で田中館長に神奈川県内の隔離分布についての説明を伺う。今日のコースで観察できる、アオホラゴケ、イワギボウシ、タニジャコウソウ、ハコネシダ、ヒメウツギは、主に三浦半島、箱根、丹沢、小仏に隔離分布し、キバナアキギリはそれに加え多摩丘陵に隔離分布する。



タニジャコウソウ (シソ科)

さらに進むと今日のお目当てのタニジャコウソウ (*Chelonopsis longipes* Makino 牧野富太郎命名)の花が咲き始めており、ワーきれい!と歓声があがる。それぞれにじっくり観察して写真を撮る。

三浦半島ではここだけで確認されているキバナアキギリも最後の花が見られ、特徴のある葉をしっかりと確認する。ここで皆で小休止し、水分補給をした。

後はひたすら途中の崖に群生するアオホラゴケを確認しながら林道終点まで

進む。林道終点向かいの崖にはイワギボウシが群生していた。花はすでに終わり、若い果実をつけていた。勇気のある人は、向こう岸まで行き、イワギボウシの特徴である葉柄の暗紫色の斑点を写真で撮っていた。遅いお昼を済ませ、資料を使いながら午前中に観察できたものを皆で確認した。

帰りはそれぞれ見そびれた種、再確認したい種を見ながら、もと来た道に戻る。林道を出た広場で次回観察会のお知らせをし、解散となる。実りの多い観察会だったとの感想が聞かれた。皆で15時02分発のバスに乗り帰路についた。

(植物グループ 佐々木シゲ子)



キバナアキギリ (シソ科)



「幕山周辺の秋の花」中止
2024年11月2日(土)に予定しておりました幕山周辺(湯河原町)での植物観察会は、雨天のため中止としました。

友の会 植物グループ

行事案内

◆ <友の会植物グループ>

一緒に活動して下さる仲間を募集中です。

私たち「友の会植物グループ」は植物の素晴らしさを皆様に知っていただこうと、植物観察会を企画しているボランティアのグループです。この度 新たにメンバーを募集いたします。

活動は、一日観察会を年に5回、半日観察会を年に4回実施します。観察会を通じて 植物の素晴らしさ、面白さ、また奥深さなどを参加者の皆様とともに学んでいます。

また、グループ員だけの勉強会も実施し 植物知識の涵養を図っています。

植物に興味のある方、植物のことをもっと知りたいと思われる方、仲間になりませんか。

「友の会植物グループ」がどのような活動をしているか、下記にて説明会を実施いたします。皆様のご出席をお待ちしております。

日時：2025年1月24日（金）13：00～15：00

場所：地球博物館 3階 実習実験室

内容：活動内容の説明 メンバー紹介 質問他

申込み：1月19日（日）までにWEBフォームで

講座名：植物グループ活動説明会

2025年度から友の会新入会でも可。

当日ご都合の悪い方はその旨ご連絡ください。

問合せ先：近田 0463-82-0804（19：00～21：00）

◆ 植物観察会 「冬の雑木林を歩く」

まだまだ寒い2月、でも思い切って一步外に出てみませんか！

今回は秦野盆地の南側、渋沢丘陵の雑木林や尾根道で冬芽、ロゼットなど植物の冬の姿を観察します。

行程は緩やかな勾配です。丹沢の山並みを望みながらゆっくりと歩き楽しみましょう。

実施日：2月15日（土）雨天中止

場所：秦野市千村 頭高山方面

集合：小田急小田原線渋沢駅 改札口前 9：10

南口バス停から「千村台」行バスに乗車

解散：同駅 15：00頃

コース：千村台～白山神社～頭高山頂上近くのおず

ま屋（昼食・トイレ）～尾根道～渋沢駅

講師：田中徳久氏 当館館長

対象：オープン（どなたでも）大人20名

参加費：会員500円 非会員700円

申込み：友の会のWEBフォームで2月2日（日）までにお申し込みください。

メールアドレスの無い方は1月31日

（金）～2月2日（日）の19：00～21：

00の間に電話で申し込んでください。

電話申込先：田畑 080-5645-7987

当日連絡先：田畑 同上

佐々木あ 080-5686-6762

*詳細はメール等でお知らせします。



ツノハシバミ（カバノキ科）

※ 年間行事一覧表では場所を弘法山としていましたが、都合により頭高山方面に変更しました。

◆ よろずスタジオ

「アンモナイトをなぞろう」

アンモナイトなどの化石の写真をなぞって、スケッチにチャレンジしてみよう

対 象：子ども（当日の来館者）

申込み：不要／オープン

参加費：無料

場 所：博物館1階 東側講義室

日 時：2月16日（日）13：00～15：00



2004.9.3 佐渡島地学特別巡検（1泊4日）



2022.12.10 東丹沢経々岳山麓の化石を追う

◆ 地話懇話会

「友の会発足時から今までの講座を振り返る（仮題）」

話題提供者：当館学芸員 山下浩之 氏

日 時：2025年3月26日（水）14：00～15：30

受付は13：40から

場 所：神奈川県立生命の星・地球博物館
西側講義室

対 象：友の会会員を原則とする。

申 込：当日受付制（人数制限は設けません）

備 考：マスク着用については、個人の判断にてお願いいたします。

内容紹介

友の会の地学グループは、1998年から活動を開始し、現在まで約90回に及ぶ野外観察会を実施してきました。箱根、丹沢、大磯丘陵などの県内から、遠くは秋田県の男鹿半島まで足を運んでいます。今回の地話懇話会では、これまでに実施してきた野外観察会を紹介するとともに、参加者とともに今後どこに行きたいかなどを話し合いたいと思います。

◆ ミューズフェスタ 2025

ミューズフェスタ 2025 が次の要領で開催されます。2025 は、生命の星・地球博物館にとって開館30周年の記念すべき年になります。当日二日間、例年通り館を無料で開放します。皆さん、お誘い合わせの上、ご参加ください。お子さんが楽しめるワークショップもありますので、ご家族連れでのご参加、大歓迎です。

友の会コーナーは、2階の情報コーナー（ライブラリー前）にて、友の会講座の年間活動紹介のポスター展示や「友の会通信」と「自然科学のとびら」バックナンバーの無料配布、そして久しぶりにお子様向けの「きのこのスタンプ」づくりを予定しています。

日 時：2025年3月15日（土曜）9:00～16:30

（友の会コーナーは10:00～15:00）

3月16日（日曜）9:00～16:30

（友の会コーナーは10:00～15:00）

会 場：生命の星・地球博物館のエントランス、
SEISA ミュージアムシアター、東西講義
室、2階情報コーナー、3階実習実験室

※ 当日は混雑が予想されますので、出来るだけ公
の交通機関をご利用ください。



2023年 友の会展示



2024年 友の会展示



2024年 エントランスの賑わい

友の会主催行事の参加申込みについて。

◆行事案内に申込み方法が指定されていない場合
往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務
局までお送りください。

■必事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・
年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話
番号／指定事項

◆行事案内に申込み方法が指定されている場合は
指定された方法（メール・電話等）にてお申し
込みください。

◆現在、一部の講座でWEBフォームによる申込
受付を行っています。以下のQRコード又は
URLよりアクセスして、申込をしてください。

URL：

<https://docs.google.com/forms/d/1mZYCyRovh0iHe5DvvDGfzaWu0KLUP-6viVd-ZACQy8/edit>



注意！

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資
料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記
事項に記載があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます
（参加費が会員とは異なる場合があります）。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、
直接＜連絡先＞へお問い合わせください。

■持ち物など詳細はメール・返信はがきに記載さ
れます。

次号は、2025年3月15日発行予定です

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.28、No.3、通巻126号 2024.12.15 発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：http://blog.livedoor.jp/kpmtomo
Twitter：@kpmtomo